

僕に起きた“変化”の物語

～ フィクションの様なノンフィクションストーリー～

どうも、田中です。

随分と久しぶりにレポートを作りたいと思い立ったので、これからあなたに、僕がこの数ヶ月間で体験した

“フィクションみたいな、ノンフィクション”

な出来事の連続をシェアしようと思います。

最初にはっきりと言っておきますが、このレポートでお伝えする話の全ては“盛り”や“誇張”なく、全て事実。

元々、生まれも育ちも、それ以降の僕の人生に起こるエピソードも、一般的には普通じゃないことが多いらしく、若干よくある漫画のような日常ではありました

が、ここ数ヶ月間の中で僕に起こり続けている出来事や出会い、それによる**“変化”**は、漫画や映画だったらもう少しリアリティがあるエピソードにするんじゃないか？と言わざるを得ないようなことばかりです。

でね。

ここが重要なポイントなんだけどね。

なんでそんな、まるで“作り話”に思えるような話をこうやってレポートにして、僕のメルマガやLINEの読者の皆に届けるのかってことなんだけど、それは、今回のような面白い変化のストーリーは、僕だけではなく

“自分本来の在り方”

をすることによって、誰にでも起こり得ることだから、なんですよ。

別に自慢話をしたいわけじゃねーよ、ってこと。

僕は、それを、ある人物との出会いによって、その人物から施された

“お祓い（調節）”

によって、手に入れることができたみたいで。

それによる自分自身の変化、自分に起こる現実の変化が、もう、面白いくらいにこれまでとは異次元で。

自分が生きているうちに無自覚でつくってしまった

- **心の傷**
- **思考の癖**
- **行動の癖**

をはじめ、前世や家系のカルマ的なものを含め、適切に調節することによって、自分が本来創ることができ

る現実というものを、あなたにも体感してほしい
な一、なんて思って、今回僕のここ数ヶ月の物語をレ
ポートにすることにしました。

読み進めるだけでも気づきや学びが得られるものにな
ればいいのになあ、なんてことを思っただけ
ど、それよりもまずは僕に起こった“変化の物語”を
シェアすることで、なにかを感じてほしい。

そして、あなたが望むのであれば、僕に起こった“変
化の物語”のきっかけになったある人物を紹介しよう
と思っています。

是非、リラックスして楽しみながらこの先を読み進め
てみてください。

大器晩成？成功の器？ もう聞き飽きたぜ…。

何度、耳にただらう。
何度、人に言われたただらう。

占い師や、いわゆる“見える”系の人たちに、僕はこれまで、何度も何度も、何度も何度も、

「大器晩成の器」
「大きく成功する器」

的なことを、言われてきました。

有名、無名問わず、ときには“見える”系のタクシーの運転手さんなんかからも（都内ではちょっと有名なスピリチュアルタクシーらしい）、タクシーに乗り込んだ瞬間に、ババっと後ろを振り返って

「お兄さん、あなたは必ず成功するよ！」

みたいなことを、20代の頃から言われ続けてきました。

そんなことをしょっちゅう言われるものだから、なんだかその気になって、自分も近い将来、人生を大きく成功させる人間なんだろうーなーなんて無邪気に思いながら生きてたわけだけど、なかなかその気配がないんですよね。

もちろん、毎日、ハッピーな日々ではあるんです。充実した毎日であることは、間違いない。

好きなことを仕事にして、自由を大切に生活できているわけだから、ある意味それは“成功”と言えるのかも、しれない。

実際に、収入や生活水準なんかは、30歳になっただけにはもう、同年代の人よりは遥かに高かったから、そういう意味でも周りから見たら“成功”しているようにも見えるのかも、しれない。

だけど…。

自分の心は、知っている。

そう、自分の心は知ってるんですよ。

いくら、同年代よりも稼いでいようと、
いくら、他の人から羨ましがられようと、

「俺の人生は、こんなもんじゃない」

と心のどこかで思っているわけだから、今現在が自分
の中で成功しているかどうかなんか、わかってるわけ
です。

まだまだ、してないんですよ。

まだまだ、満足なんてできてないんですよ。

これは、“無い物ねだり”とか“無限の欲”とかそういうものではなくて。

だけど、現実は一向に変わっていかないんですよね。

日々、自分が創りたい現実に向けて、学ぶことはもちろん、得たい結果に寄与する行動を明確にすることだったり、そのための行動は、人一倍やってきた自負があるし、やり続けている自信もある。

でも、自分の現実って、毎日って、人生って、20代の頃に想像していたほどは、スケールしていかないんですよね。

あ、これは“稼ぎの額”とか“資産”とか、そういう細かい話ではなく、人生全体の話、です。

「贅沢、言うな。」

的な言葉が聞こえてきそうなことくらい、理解しているんだけどこれは仕方のないくらい、心からの本音だったんですよ。

「俺の人生こんなものじゃないはずだけどなあ...。」

って気持ちを心の中に残しながら、なんとなく
“うまくいってそうに見える人生”を過ごしていたら、
あっという間に30代が終わりました。

**QOLは低くは、ない。
これが実は大問題。**

ご存知のように、僕は“QOLコンサルタント”という肩書を自分でつくり、

・心マネジメントスキル

- **時間マネジメントスキル**
- **習慣マネジメントスキル**
- **目標マネジメントスキル**
- **コミュニケーションスキル**

等などを“QOLスキル”として体系化し、コンテンツとしてそれを必要とする人に伝えるということをして、かれこれ13年ほど仕事としてやってきました。

この仕事の一番のメリットというか、役得的なポイントとして、

“自分自身のQOLスキルの向上”

というものがあまして、元々僕は、コミュニケーションスキル以外の全般が苦手というか、欠落しているタイプの人間だったんだけど、

- **学ぶ（知る）**
- **実践する（やる）**
- **シェアする（伝える）**

という、いわゆる“スキル化のサイクル”を回すのが前提となるこの職業は、想像以上に僕のQOLスキルを向上させてくれました。

その恩恵は計り知れない物があり、基本的には

“目標達成をあえて、やめる”

というとんちんかんなことをしない限り、得たい結果を実現できるようになっていました。

が。

これは、“**己が明確にできる目標**”に限ったことで、それ以上のスケールのもものになると、なかなか現実が変わっていかないというジレンマもあって。

とはいえ、中途半端に自己実現能力がスキルによって高いものだから、QOLも別に、低くはない。

だけど、これが望んだ人生、現実なのか？と問われればそこに「YES！」と即答もできない自分もいる。

僕の30代は、そんな感じで、あっという間に過ぎていきました。

それでも引き続き、定期的にご縁がある、いわゆる“見える”“スピリチュアル”的な人から、

「あなたは、大きな成功をおさめる」

的なことを言われるたびに、

「で、それは、いつになったら、始まるの？」

と、思い続けてきた30代だったように思います。

そんな毎日が、つい数ヶ月前から変わり始めました。42歳になった今年の6月、ある人物との出会いをきっかけに、突然、ドラスティックに変わることになるなんて、全く想像もできませんでした。

「また“そっち系”の人か！ もういいよ、“そっち系”は…」

2022年6月の上旬。

かれこれ5～6年くらい前から親交があった友人が

「紹介したい人がいる」

らしく、久しぶりに飲みに行くことになったので何も考えずに、気楽に約束の店にいつもどおり時間に遅れて到着すると、ひと目で普通じゃない雰囲気的女性がそこに座ってました。

だって、ド金髪で超短髪的女性ですよ。

どこからどーみても、普通じゃない笑。

僕の友人には絶対にいないタイプの女性でした。

だけど、見た目以上にこの女性が普通じゃないことを、僕はさらに知ることになるんですよね。

と、言うのも。彼女は、お互い簡単な自己紹介をし終えた直後から、目を閉じて、身体を揺らしながら独特の雰囲気を出し始めるんですよ。

どこからどーみても、普通じゃありません。

初対面の女性が、いきなり目の前で目を閉じて、身体を揺らすなんて、普通なわけないじゃないか。だってそーじゃないか。

一通り身体を揺らし終わると（2～3分間くらいでしょうか。ひとまず、長く感じた）、彼女は突然、

**「3年前くらいの、いや、3年前の○○の出来事が
きっかけで、あなたは○○△△... ..」**

みたいに、話始めるんですよ。

突っ込みどころ、満載です。

いやいやいや、ちょっと待て、と。

「はいはい、なんででしょうか？ふむふむ...。」

と、冷静に聞けるほど僕は心マネジメントマスターではないので、正直面食らってしまいました。

なぜなら。

面食らった理由は、彼女が突然、目を閉じて揺れ始めたからでも、ド金髪の超短髪だからでもなく、彼女の口から出てくるあらゆる言葉の数々が、

実際に僕自身に起こった事実であり、その中には僕しか知り得ないようなことがたくさんあったから

なんですよね。

正直、かなり驚きました。

だけど、それと同時に、

「あ——、また“そっち系”の人か——。

もういいよ、“そっち系”は...。」

という気持ちもあって。

失礼極まりない話だけど、正直、このときはそう思ったんですよね。

だけど、お構いなしに彼女は“降ろす”のを続けます。

ちょっとその内容はここで話すことは絶対にできないレベルでプライベートなことばかりなのでなんとも言えないのですが、そのどれもが、僕だけしか知り得ないことだらけ。

とはいえ、こういう“力”がある人は、これまでも何度も会ったことがあるんですよね。

どの程度の力で、どのレベルまで“視えている”かどうかは、僕にはわからないけど、これまでも、正直、経験はあった。

だけど、これまでのそういう系の人たちと、彼女とで明らかに違うのが、

「田中さんの心の傷からきている“思考の癖”を、いまこの瞬間に調節しました。」

人には、自分自身の努力や行動で変えられることと自分の努力や行動ではどうにもならない領域のことがあります。

いま、調節したのは、あなた自身ではどうにもできない領域のお祓いです。」

と、こんなことを言うところ。

ここに、僕は強烈に興味をひかれました。

これまで僕は、なんていうんだろう、占い師的な人、スピリチュアル的な力を持つ人に対して、

「過去、こういうことがありましたよね？」

的なことを当てるだけ当てて、その人の心をロックして、信じさせて、今後の行動の助言をするそのスタンスになんとも言えない違和感を感じていました。

過去を当てて、どうなんだ、と。

エンタメだったらそれでいいけど、当てたところでそれで人生がどう変わるんだ、と。

実際、現実って面白くない理屈に聞こえるかもしれないけど、自分自身の行動の後に、結果が作られるわけじゃないですか。

これはもう、法則のようなものじゃないですか。

にも関わらず、

「あとは自分次第。自分で頑張れ」

的なことを、“目に見えない不思議な力”を持ってるのがそれをやることに、なんとも言えない違和感をもっていたんですね。

でも、どうやら、彼女は違うみたいで。

自分の努力や行動でなんとかなる領域

自分の努力や行動ではどうにもならない領域

を明確に分けて捉えているみたいで、しかもその“自分の努力や行動ではどうにもならない領域”を、

“お祓い（調節）”

によって変えてしまうというじゃないですか。

なんと面白い話でしょう。

そんなことができるなら、超面白いじゃないですか。

とはいえ、いきなりそれを信じ切るほど僕は純真無垢な少年でもなんでもないので、

「は——、そうなんだねえ。

とはいえ、それってホントなのかね。」

くらいに思っていました。

が、この日から、僕の日常は面白いくらいに変わりはじめます。

お祓い（調節）まみれの毎日。

会った初日に興味と関心をもったことや、彼女の人間性や生き方や志に意気投合したこともあり、その翌日から、僕は頻繁に彼女の

“お祓い（調節）”

を受けることになるんだけど、これがもう、驚きの連続でした。彼女のお祓い（調節）の基本は、

**「その人がもっている、最もその人らしい在り方へ
周波数を調節する」**

ということらしいのですが、これをやり続けることで、僕の日常のありとあらゆることが、変わり始めます。

- **思考や行動の取捨選択が変わる**
- **集中力が圧倒的に上がる**
- **自信が心の底から溢れ出すような感覚になる**
- **これまで気になってたことが気にならなくなる**

等など、わかりやすい変化がすぐに起こり始めるんだけど、特筆すべきは、その全てが

“まるで以前からそうだったかのように、自然に”

変わる、というポイント。

これまでやってたこと、意識してたことが、自然とそうじゃなくなるように、あらゆることが自然と、以前からそうだったかのように変わっていくんですよね。

だから、最初は自分自身の変化に、他人からのフィードバックで気づくことが多かった。

親しい人に言われて、はじめて自分の変化に気づく、みたいな感じでした。そのくらい、自然にスムーズに変わっていくんですよ。

分かりやすく、変わったこと。

彼女のお祓い（調節）を受けてから、分かりやすく変わったことは、

- **ビジネスの売上**
- **出会いの質の変化**

です。

もちろん他にも変化はたくさんあったんだけど、この2つは特に、顕著でした。

ビジネスの売上は、文字通り、そのまんまなのですが、僕が営んでいる会社の一つの売上が、彼女と出会ってからわずか2週間後くらいに

これまでとは全く異なるアプローチで これまでとは全く異なる規模の売上が上がる

ということを経験しました。

これも、全て、お祓い（調節）後の自分の感覚感性に従って、その時やるべきだと思ったことをやった結果だったんですが、正直このパフォーマンスには驚きました。

でもね。そんなことよりも、エゲツないのは

“出会いの質”

の変化なんですよ。

これに関しては、先日（といっても結構前っすね笑）配信した音声でもサラッと話している内容だけど、結構なインパクトなので、ここでちょっとだけ詳しくシェアしますね。

売れない漫画のような物語

彼女のオフィスが、僕の自宅の近所だったということもあり、僕はちよくちよくお祓い（調節）を受けるようになってきました。

彼女にやってもらったお祓い（調節）は、

- **僕が本来持っている才能の発揮**
- **僕が本来持っている魅力の発揮**

というものだったらしいんだけど、そのお祓い（調節）を受けた直後から、日常に起こる出会い・ご縁が

これまでのそれとは明らかに変わってきていることにさすがに気がつくようになりました。

その一つが、以前WeeklyQOLの音声でも話した、ある実業家であり資産家のおじさんとの出会いです。

僕はこれまでも、いわゆる“成功者”と呼ばれるような人だったり、著名人的な人とのご縁がちょこちょこあったりもしたんだけど、ちょっとこのおじさんは別格でした。

友人と後輩と3人で何気なく訪れた小料理屋のカウンターの中で料理を作っていたおじさんが、まさか

- **上場企業を十数社傘下におさめる大企業の創業者**
- **金融資産数千億円の資産家**

である、なんて普通想像もしないですよ。普通に、僕も想像なんてしてませんでした笑。

その日も、いつものように笑顔で元気よく店内に入り、店員さんたちに挨拶をしてカウンターで談笑しながら料理が出てくるのを待ってたら、やたらとカウンターの中にいるおじさんが、ギョロギョロとした眼光でこっちを見てくるんですよ。

**「おおお、なんだこのおっさんは。
やたら迫力あるな、腕相撲でもしたいのかな」**

くらいに最初は思ってたんだけど、このおじさん、僕らの会話にやたらと興味を示し、途中からどんどん会話に入ってくるんですよ。

そのときにしていた会話は、

- **日本という国の話**
- **先人たちが残してくれた文化や伝統の話**
- **大東亜戦争の話**
- **大和魂の話**

等など、一人でも女子がいたらドン引きするような会話の内容だったんだけど（いつもこう）、我慢ができなくなったのか、このおじさんはとうとう、仕事を放棄して料理人のユニフォーム的な前掛けを外し、なんとカウンターと一緒に座りだすわけです。

衝撃です。

だって、あんたは料理を作ってなさいよ、って話だもの。

何を隣に座っちゃってんのって、話じゃないですか。

そんなこっちの心境は完全に無視して、このおじさんは悠々とカウンターに腰掛け、タバコを口に加えて僕らの話にじっと耳を傾けてたと思いきや、ある瞬間、突然こう口にします。

**お前と出会う為に、
俺はこの店を始めたんや。**

**「店に入ってきたときの挨拶、雰囲気、佇まい。
喋り方、話す内容、考え方。」**

会った瞬間からビビッときた。

一目惚れや。

俺はお前に出会う為に、この店を始めたんや。」

細部までははっきりと覚えていないけど、ほぼほぼ、
こういうセリフだったはず。

強烈の極みです。

こんなことを、齢60前後の眼光鋭いおじさんに言わ
れたら、あなたはどうしますか？

綺麗な女性に言われるならまだしも、いかついおじさ
んに、真剣な眼差しでこんなこと、言われたら。

今となっては、この人の性格も生き方も知ってるから、このときの言動は理解できるんだけど、初対面のこの日はさすがに僕も面食らって、

**「うお。やべーおっさんに引っかけたぞ。
うまいこと誤魔化しながら、さっさと退散しよう」**

くらいに思っていました。が…。
このおじさんの本気度は、僕の想像を遥かに超えてきました。

**「おい、お前。お前に渡したいものがある。
ちょっと、待っててや。すぐに戻るから。」**

と、いつの間にか、お客と店員という関係とは到底思えないような言葉づかいになったこのおじさんは、店を出ていきました。

渡したいもの？なんだそりゃ。ていうか、こんなおっさんからは何ももらいたくないよ…、くらいにその時は思ってもいたんだけど、なんだかドラクエのような展開に思えてきてその場を楽しみはじめてもいました。

待つこと、約20分。

眼光鋭いおじさんは、その眼光をさらに3割増しくらいにして戻ってきたんだけど、その右手には明らかに尋常じゃない雰囲気の手帳が携えられているんです。

そして再びカウンターに腰掛けると、自分自身の話をゆっくりとした口調で始めました。

口座残高2600億円...!?

関西弁の語り口調を再現する技術が乏しいので、彼が
このときに話してくれた内容を要約すると、こう。

- **学生で起業してそれからずっと事業をやってきた**
- **30代で大きく事業を伸ばして財を成した**
- **40代で上場企業を次々と買収して事業拡大した**
- **都心に約50棟ほどのビルを所有している**
- **お金や事業だけの人生に疑問符が出た**
- **“第二の人生”を生きたくなって小料理屋を買った**
- **これまで築いてきたものを継承する人を探してた**
- **それを今日、見つけた**

ざっくり、こういうことを、ギョロついた眼光で、本
来は禁煙のお店だろうにお構いなく紙タバコをふかし
ながら僕らに熱く話すわけ。

だけど。

そのとき僕が考えていたことはというと、

「おいおいおいおい、ホントかよ？」

だったんですよ。だってね、時々あるんですよ、こういうの。酔って勢いに乗り過ぎて、

「俺は実は、資産100億持ってるんだ！」

「俺は芸能界や政界と太いパイプがあるんだ！」

「都内に何十店舗も店を持ってるんだ！」

的なことを言うおじさんは港区界限には一定数いて、その時は散々威張り倒して飲んでたにも関わらず、その後はお金も払わず帰ったっきり、音信不通みたいなケースが、たまーに、あるんです。

とか、そういうことを考えていると、それを独自の嗅覚で察知したおじさんは、突然、

「別に自慢したいわけじゃないんやけど、

信じられないのが普通やから見せるんやけど....。」

と言いながら、スマホで一つの銀行口座の残高を見せてくるんですよ。

なんとも、下品な話です。

初対面の人間に、口座残高を見せるおっさん。

もうこれは、下品の極み。

とはいえ、面白いから当然、口座を確認してみると、

「いち、じゅう、ひゃく、せん、まん、じゅうまん、ひゃくまん、せんまん、いちおく、...、じゅうおく、...ひゃく...、おく...、せ...ん?...、おく...?」

そこには見たことがない桁の金額が入ってるじゃないですか。一同騒然です。

わずか1つの銀行口座に、2600億円を超える預金が入っていました。

「あるところには、あるんですねえ...。」

なんてレベルの話ではありません。
正直、1つの口座にこんだけの金額を預けることができることすら僕は知りませんでした。

継承者を、ずっと探してた。

その残高の数字に僕ら一同が驚いていると、おじさんはそれを気にせず話を続けます。

**「ずっと、後継者を探しとったんや。
実の息子はいるんやけど、あいつじゃ、ない。
それを今日、見つけた。それが、お前や。」**

若干僕がリアクションに困っていると、矢継ぎ早に、先ほど取りに帰った異様に雰囲気のある書物を取り出し、

**「これは、天皇陛下から直々に受け取った、書物や。
これをお前に、渡す。」**

**「売るのはもちろん、写真撮ったり、他人に見せたり
SNSに上げるのは絶対に厳禁やで。」**

そう言って、僕に重厚な木が表紙の書物を手渡してくるわけです。

もはや、ドラクエですよ。
こんな展開予想できるわけがない。

というか、別に欲しいわけでもないんだけど、
その異様な雰囲気飲まれて

「ありがとうございます。家宝にします。」

と言って受け取ってしまいました。

後に真贋を査定してもらったところ（これも失礼な話なんだけど笑）、専門のオークションなどに売りに出せば、なんと数億円の価値があるものらしく、まぎれもなく本物でした。

「これは、今後の挨拶代わりにや。」

と言ってこの書物を受け取った翌日から、このおじさんとの密な関わりは始まりました。

目まぐるしく変化する日々。

初対面で書物を受け取った翌日から、毎日このおじさんと会い、色んなことを学ばせてもらう日々がスタートしたのですが、最初の頃はもう、毎日毎日、耳にタコができるくらいに

**「お前には、とにかく力とカネがない。
急ぎ足で、力とカネを持ちなさい。」**

**「正しいことをするためには、力がある。
崇高な志だけではなく、それを果たす力をつける」**

と言われ続けました。

**「とりあえず、勉強がてら、小遣い稼ぎがてら、
この事業をやってみなさい。」**

とって引き継いだいくつかの事業は、全て20億円～30億円といった規模感のものばかりで、全てが新鮮かつ、学び、新しいチャレンジの連続です。

いま、まさにそんな最中にいるんだけど、こういう流れは、これまでの僕の人生では起こり得ないようなものであることは間違いありません。

そんなエキサイティングな日々を送っていたら、あっという間に時間は過ぎてしまい、QOLコンサルタントとしての情報発信が全くできなくなっていました。

これはあくまで、一例。

そう。

この話は、あくまで一例に過ぎません。

この他にも、これまでの人生の延長線上だったら絶対に起こり得ないような出来事や、出会い、ご縁が日常の中に当たり前に起こるようになりました。

契約等の関係でまだ発表できないんだけど、近い将来、かなり面白い動きも始まるし、なんていうんだろう、まさに

「人生の本番が、いよいよ始まった！」

って言葉が一番しっくりくる感じなんですよ。ここしばらくコンテンツをお届けできなかった期間に、僕の現実にはこういう変化が起こっていました。

あなたには、あなたの ドラマがある。

ここ最近の僕に起こった出来事の、ほんの一例をこのレポートではシェアしていますが、繰り返しになるけどこれは自慢したくてやっているわけじゃ、ありません。

なぜなら、誰だって、本来の生きるべきドラマが確実に存在するのだから。

綺麗事でもなんでもなく、あなたには、本来、あなた専用のドラマがあるんですよ。

もちろん、今現在の日々が、人生が大満足であるならそれは最高に幸せなことなのでそれでOKです。

だけど、ちょっと前の僕のように、

「なーんか、こんなものじゃないはずだけどな...。」

と少しでも思うのであれば、今の毎日は、人生は、本来のあなたであればもっと素晴らしいものにできる可能性が極めて高いです。

これは完全に彼女の受け売りなんだけど、本来の自分の在り方、最も自分らしい適切な在り方に周波数を調節すれば、誰だって人生はドラマティックでエキサイティングでハッピーなものなのにも関わらず、自分自身の在り方がズれていることで、周波数がズれていることで、本来の自分が創り出せる人生を生きれてない人がほとんどらしいんです。

そしてそれは、自分の努力や行動ではどうにもできない領域の問題であることが、ほとんどのこと。

であれば、今回僕が体験したような、“**お祓い（調節）**”を受けることで人生が劇的に良くなっていく人がたくさんいる、ということだと言えるわけです。

僕の場合は、これまで培ってきたQOLスキルも大いに役立っていることは間違いありません。

が、それはあなたも、同じですよ。

これまで、真摯に学び、真剣に自分の人生に向き合い、努力し、頑張ってきた人が、僕のメルマガの読者さんには多いことは、わかっています。

であれば、「努力や行動ではどうしようもない領域」を適切に調節する機会を作ってあげるのは、僕にしかできないことなんじゃないのか？と考え、彼女のことをまずは知ってもらおうということで今回こういうレポートを作成して届けている次第です。

とはいえ。

興味本位で、エンタメ気分で 関わって欲しくない。

そう。

文字通り、興味本位やエンタメ気分で関わられるのは、彼女にとって極めて失礼ですし、そういう人には彼女を、彼女の力を紹介したくはありません。

なので、このレポートを読み、感想を専用のLINEに手順通りに送ってくれた人にも、彼女に関するコンテンツをお届けしようと思います。

彼女のコンテンツは、凄まじいですよ。
直接会わなくても、音声コンテンツで

“お祓い（調節）”

ができてしまいますから。

実際に、彼女が手掛けた音声コンテンツで現実が激変した人は大勢いらっしゃいます。

し、僕もそのうちの一人です。

もし、今回の僕の変化のレポートを読み、何かしら心が反応していたり、興味がある場合は、**このレポートの追伸でご案内する専用LINE**に、ご登録ください。その後の手順をご案内しますので。

嫌がる人がいるのは百も承知。

僕自身にここ数ヶ月で起こった出来事や変化などの話は、もっともっと色々な話があるので、まだまだ伝えたいことはたくさんあるのですが、それだとあまりにきりがないので、そういう話は、希望者にのみ、別のところでシェアしていこうと思います。

数十年先の、大きな夢、くらいに思ってたことが、数ヶ月以内に実現できそう…みたいな話は、いくつもあるくらい現実が大きく変わってきてるんですよ。

とはいえ。

こういう、目に見えないような、理屈で説明できないようないわゆる“スピリチュアル”的な話は、本能的に受け付けられない、嫌いだ、という人も一定数おられることは重々承知しています。

特に、僕のメルマガは論理的なタイプの方が多いので、今回のような話は受け付けられない人も少なくないでしょう。
そういう場合は、普通にスルーしてくださいね。

無理して賛同しようとする必要もないし、いちいちアンチ的なメッセージを送ってこなくても大丈夫です。

スルーしてください。
それが一番、自然ですから。

ただ、論理的な話や、ロジックやメソッドが大好きな田中が、誇張や盛り一切なく経験談を話している、ということだけは忘れないでほしい。

僕は、社会貢献のつもりで、今回のレポートを書いていますし、彼女を紹介しているつもりです。

そして、僕自身、もっともっと自分自身の力を発揮させながらこの日本という国に貢献していきたいと強く考えています。

あ——、もっと面白い話がたくさんあるから
もっともっと、語りたんだけどな——笑

でも、きりがないので、やめておきます。

長めのレポート、最後まで読んでくれてありがとう！
感想、待ってます！

田中貴紀砂